



記念式で「確認書」に署名する両市長。



記念式では40年の歴史を振り返りました。



未来に向けて、より交流を進め友好を深めることをうたった「姉妹都市提携確認書」。



アンカレジ市民に向けて千歳市とアンカレジ市の交流の大切さを訴えた市長の講演。



講演は相互理解を深める機会となりました。

姉妹都市提携40周年記念式

27日午前、アンカレジ市役所で姉妹都市提携40周年記念式が行われました。

記念式では、山口市長とダン・サリバン市長が、人のつながりを尊重し未来に向けて友好親善関係をさらに深め、姉妹都市として互いに協力していくことを誓う「姉妹都市提携確認書」に署名し、今後とも教育、経済、文化などの交流を継続することを約束しました。

ダン・サリバン市長からは、「40年前に私の父であるジョージ・サリバン元市長が締結した姉妹都市提携の節目の年にアンカレジ市長としてこの場にいることを光栄に思います。姉妹都市40周年の歴史を踏まえ千歳市に敬意を表します」などのあい

さつがありました。参加者は、姉妹都市としての40年の歴史を振り返り、友好の絆(きずな)を深めることを誓いました。

アンカレジ市民への市長講演

記念式の後、会場を市内のホテルに移し、山口市長がアンカレジ市民やアラスカ州の財界人など約100人を前に英語で講演を行いました。

講演では、千歳の概要や両市の姉妹都市としてのこれまでの交流の歴史などを紹介しました。

参加者からは、中学校間での交流の可能性や新千歳空港国際線ターミナルの運用、千歳とアンカレジの空路の直行便の可能性などたくさんの質問が出され、アンカレジ市民の千歳への関心の高さを感じさせました。

歓迎夕食会

27日夕方、アンカレジ市長が主催する歓迎夕食会が「アラスカ民族文化センター」で行われました。

ここでは、先住民族の紹介や民族舞踊が披露され、心のもった夕食会となりました。訪問団員もいっしょに踊りに参加するなど、文化や言葉の壁を越えた交流を楽しみました。

「アラスカ民族文化センター」

は、先住民族のくらしを紹介する施設です。屋内には劇場や大型演舞場、屋外には湖を中心に5つの先住民モデル村落が建設され、民族衣装や舞踊、伝統工芸などを展示しています。



歓迎夕食会では参加者も民族舞踊を楽しみました。



アラスカ民族文化センターでの歓迎夕食会。